



にちようび やす 日曜日はどうして休みなの

ふっかつ いわ にちようび やす キリストの復活を祝う日曜日が休みに

1週間という考え方は、もともとユダヤ教から始まったものです。神は天と地とその他さまざまなものをお作りになり、第7日を祝福して休みになった。つまり6日間で神が天地を作り、1日休むという7日間が、1週間の単位となったのです。ユダヤ教では土曜日が安息日として休みでしたが、キリスト教ではキリストの復活を祝うということで、日曜日を休みとしたのです。

にほん がっこうきょういく ねん めいじ ねん 日本の学校教育では1873年(明治6年)から

キリスト教の7日間の伝説の始まりは、実は古代バビロニアの占星術によるのです。バビロニアでは、すでに、夜空を動く7つの星を発見していたのです。太陽系の惑星で、金星・木星・土星・水星・火星の5個と、太陽と月です。当時は天動説でしたから、太陽も月も惑星とされていたのです。これが月曜日から日曜日までの、7日間の名前になったのです。17世紀ごろから、教会に行き礼拝をする日曜日が休みとなりました。日本でも、1873年(明治6年)に、太政官達第27号で日曜日を休日とする、というおふれが出されています。(監修・保岡 孝之)

